

7.その他(DIC の請求率)

その他(DIC(注 1*)の請求率等)の集計方法と定義

◆医療の質の改善に資するため、臨床上ゼロにはなりえないものの少しでも改善すべきものとして、重篤な疾患である敗血症(注 2*)、播種性血管内凝固症候群、手術・術後の合併症、その他の真菌症について、入院契機病名(DPC6 桁レベル)の同一性の有無を区別して患者数と発症率を示しています。

(注 1*)DIC(播種性血管内凝固)とは 様々な基礎疾患に合併して凝固系が亢進し、全身の細小血管内に微小血栓が多発して臓器障害が起こる病態。これに伴って凝固因子、血小板が大量に消費されて減少し、また線溶系も亢進するため出血症状をきたす。原因となる基礎疾患には悪性腫瘍、敗血症が多い。【引用元:医療情報科学研究所 メディックメディア 病気がみえる Vol.5 血液】

(注 2*)敗血症とは 細菌感染によって引き起こされる全身性炎症反応(SIRS)【引用元:医療情報科学研究所 メディックメディア 病気がみえる Vol.5 血液】

その他(DIC の請求率)				
H26 年度				
DPC	傷病名	入院契機	患者数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	2	0. 01%
		異なる	5	0. 02%
180010	敗血症(1 才以上)	同一	32	0. 15%
		異なる	22	0. 10%
180035	その他の真菌症	同一	2	0. 01%
		異なる	2	0. 01%
180040	手術・処置等の合併症	同一	460	2. 18%
		異なる	1	0. 00%

臨床別の指標

H25 年度				
DPC	傷病名	入院契機	患者数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	5	0. 02%
		異なる	22	0. 11%
180010	敗血症(1才以上)	同一	49	0. 24%
		異なる	37	0. 18%
180035	その他の真菌症	同一	8	0. 04%
		異なる	0	0. 00%
180040	手術・処置等の合併症	同一	77	0. 37%
		異なる	2	0. 01%

H24 年度				
DPC	傷病名	入院契機	患者数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	8	0. 04%
		異なる	50	0. 24%
180010	敗血症(1才以上)	同一	50	0. 24%
		異なる	44	0. 21%
180035	その他の真菌症	同一	5	0. 02%
		異なる	1	0. 00%
180040	手術・処置等の合併症	同一	307	1. 48%
		異なる	2	0. 01%

解説

肝損傷などの重篤な外傷や、肝臓がんや膵がん、肺がんあるいは心臓血管外科疾患などの大手術後に血液の凝固に異常をきたす播種性血管内凝固症候群がおこることがあります。また、色々な感染症などから血液中に病原菌が入り敗血症になり、これが原因で播種性血管内凝固症候群がおこることもあります。

当院は数多くの併存症を持った患者さんの手術を行っています。このためこれら手術後に播種性血管内凝固症候群を合併することもあります。また当院は重篤な患者さんを主に受け入れる救命救急センター（3 次救急病院）があり、他の病院で播種性血管内凝固症候群を合併した患者さんの治療目的で紹介され入院する場合も数多くあります。

ここに示している患者数で「入院契機と同一」とは、入院した時に播種性血管内凝固症候群と診断されている患者さんであり、「入院契機と異なる」とは、入院した時には別の病気で入院したが、その後に播種性血管内凝固症候群をおこし、元々の病気の治療よりも播種性血管内凝固症候群の治療に時間を要する（医療費を多く必要となった）場合をお示ししております。

播種性血管内凝固症候群の入院患者数は年々減少し、平成 26 年度には 7 名です。これは当院での手術後などに播種性血管内凝固症候群が発生した場合には、元々の病気の方を傷病名にするようにしたためです。

敗血症の入院患者数も播種性血管内凝固症候群と同様に、当院での手術後などに敗血症が発生した場合には、元々の病気の方を傷病名にするようにしたため、平成 26 年度では 54 名と減少しました。

手術・処置等の合併症では、腎臓・高血圧内科の入院治療で、透析を行うために必要なシャントが血栓などで閉塞し使用できなくなり、その治療（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）目的で入院する患者さんが多いためです。